**1ページ目**

**ロータリーの職業奉仕　　知っておきたい 四大用語**

**第３「四つのテスト」　　　第４「ロータリーは人づくり」**

**2ページ目**

**テイラーと四つのテスト**

ロータリーの哲学を 端的に表現し、職業奉仕の 理念の実行に 役立つものとして、四つのテストがございます。　このテストは、シカゴの ロータリーアンであり、のちに、ロータリー創始50周年に 国際ロータリー会長を

務めた ハーバード　J　 テイラー が 1932年の 世界大恐慌の時に考えたもので、商取引の公正さを 測る尺度として、多くの ロータリアンに活用されてきました。

ハーバードJテイラーは、大不況の中で、低迷している会社を 再生させるには、会社の中に、同業者には無い、何かを育成しなければなりませんでした。　テイラーは　その何か！！に、社員の人格と 信頼性と

奉仕の心を選んだそうです。

その育成の指針として 会社の全従業員が 使えるような 倫理上の 尺度として作ったのが**四つのテスト**です。

**四つのテスト**は簡単な言葉ですが、クラブ・アルミニウム社の苦境期の 決定を 下す基盤となり

また、クラブ・アルミニウム社の、従業員は 四つのテストを 暗記するよう 求められ、四つのテストは、

仕事のあらゆる面における 指針とも　なりました。

RI理事会は1943年に正式に四つのテストを　採択し、その版権は1954年、ハーバード・J テイラーがRI会長の時に 彼から RIに 寄付されました。

**３ページ目**

**四つのテスト**

ロータリーの 目的、職業宣言、五大奉仕の定義 が　ロータリーの奉仕の理念とその実践を 示すものであるのに対して、四つのテストは 日常の商取引・産業活動におけるロータリアンの言行の自己評価の為の

テスト形式の基準として、導入されました。

資料部分

1. **真実かどうか**
2. **みんなに公平か**
3. **好意と友情を深めるか**
4. **みんなのためになるか どうか**

新入会員にロータリーを最初に説明するときに、四つのテストがよく使われるように、

このテストの邦訳には、ロータリーの精神が、**ロータリアン**のみならず一般の職業人にも理解できるような形で、簡潔かつ的確にまとめられています。

**ロータリークラブ**あるいは**ロータリアン**が 理念の実践を通して 社会に対する真実の灯となり、重要な規準となると いっても過言ではないです。

資料部分

・ロータリーの哲学を 端的に表現　職業奉仕の理念の 実行に役立つもの

・日常 の 商取引

・産業活動における**ロータリアン**の言動の自己評価のための**テスト形式**の基準

**４ページ目**

**1.真実かどうか　　　１. Is it the truth?**

資料部分

**「真実」　とは　　「 嘘偽りのない 本当のこと 」　　「事実」と 同じか、違うのか？**

・**事実 と 真実**とは　強いつながりを　持っていますが、同じではない。　と言う事で、

・同じ**事実**でも、 その人の**経験**や**洞察力**によって、その評価が異なります。

・時の経過とともに、多くの**事実が蓄積**され、 根本原理が深まり

・**事実**は、場所による隔たりを示すことがあります。

・真実は、関わる人や時代・場所と ともに ある種の ゆらぎを示しつつ、次第に深まり、

最終的には　唯一つの ものに　収斂していきます。

**たんなる 事実か どうかではなく、**

**物事の原理・原則・根本原理に適っているかどうか！！と、言う事です。**

**ロータリー**の**奉仕の精神**、すなわち、**ロータリー**の 真実の変遷にもそれが見られるように思います。

**５ページ目**

**2,みんなに公平か　　2. Is it fair to all concerned ?**

資料部分

・「fair」　は　　**「公平」 　ではなく　 「公正」**　　公平　は　平等分配で公正はその場の状況に応じて、　私的感情をあまり交えずに偏なく対処すること

・「concerned」 は 「四つのテスト」を。。。商取引に限りますが　→　**すべての取引先**

また、商取引以外の場でも 使われる可能性を　→　**みんな、、、**

Fair と　all concerned と言う、言葉の翻訳に問題があると思います。

Fairは　**公平**では無く　**公正**　と訳すべきです。

公平とは 平等分配 を意味しますので、例えば、贈収賄で得たunfairなお金でも 平等に分ければ

それで 良いことになります。

**オールコンサーンドゥ**は**all**だけが訳されており、肝心の　**コンサーンドゥ**が省略されています。

四つのテストは「商取引」の 基準として 定めた文章なので、このconcernedは「取引先」の ことを

意味します。

従ってこのフレーズは「**すべての取引先に対して公正か**」 と いうことを 意味しています。

**ロータリアンの　日常生活の　すべての言動に適用**

**『みんなに公正に対処しているか！！』　の方が原文の意味を適切に伝えていると思います。**

**6ページ目**

**3. 好意と友情を深めるか**

**3. Will　 it　 build　　 goodwill and better　 friendship ?**

**goodwill** は単なる好意や、善意を 表す言葉ではなく、 商売上の信用や 評判を表すと共に、店の

のれんや取引先を表します。

すなわち、その商取引が 店の信用を高めると同時に、よりよい 人間関係を築き上げて、取引先を増やすかどうかを 問うものです。　**「信用を高め、取引先をふやすか」**　と　訳すかと思います。

**「好意と友情を深めるか」**の　判断で私的な感情が強く入り過ぎないように　戒めているという、解釈も出来るかと思います。　いずれにしても、ロータリアンの言行は　**「この四つの問いのすべてに　『イエス』**　と答えられるものでなければならない」と言うことです。

「自分の考え、意見、行いが 他との好意・友情を一層密にするか」 という問いかけであり、他の人々と

付き合うときの、ごく自然で 基本的な 対処の仕方になります。

**7ページ目**

**4. みんなのためになるかどうか**

**4. Will it be beneficial to all concerned ?**

の、「beneficial」は、四つのテストを 商取引のみに 関連するものと考えれば、

**「利益をもたらす」** という形容詞に なりますが、ここでは、もっと広い意味に考えて、「有益な」と

訳すのがよいと思います。

資料部分

**「beneficial」**

→　すべての取引先が適正な利潤を得るか

すべての取引先に　利益をもたらすか！！

→　もう少し広い意味に考え、「有益」か　どうか

→　みんなのためになるかどうか

道徳的な基準は、自分が何かを行うときの 他への態度の規範でありますが、それは当然、直接の

相手だけでなく、その周辺の 人達への 配慮も含んでいなければいけません。これが**「みんなのためになるかどうか」** であると考えられます。

**四つのテスト　の曲　紹介**

**8ページ目**

**カナダにある「サスカチュワン　ナットアーナ　ロータリークラブ」で作成され例会でも『四つのテスト』として使用しているとのソング**

**こちらの曲は、実際に「４つのテスト」として使用いているとの事ですが、作成の経緯などは不明です。**

**お時間が 御座いましたら 一度 Ｗｅｂ サイトなどで 調べてみてください。**

**9ページ目**

**「ロータリーは人づくり」**

ロータリーの　人づくりに関しては、多くの先人たちが**意味のある**言葉を残しています。

**・初代ガバナーの　米山 梅吉　様**は、ロータリーの例会は　人生の道場　人づくりの修練の場である。

・**佐藤千壽パストガバナー**　　ロータリーの人づくりとは、芋の子を　桶の中に　ぶち込んで

　　　　　　　　　　かき廻す様なもので、芋と芋とが　お互いにこすり合って　自然と黒い皮が

むけて綺麗になる－

そのかき棒になるのが　ロータリーの計画する　様々な活動である

**・ハーバート・テーラー**“Rotary is maker of friendships and builder of men”

『ロータリーとは、友情を育み、人と社会をつくり、世界各国の　人々の間に 善意と 友情 を 芽ばえさせる団体である』

**10ページ目**

**ビル・ロビンズ 国際ロータリー会長**　は、ロータリーの 第一の仕事は 人を作ること！！

　“Rotary’s 　first　 job 　　is 　　to build men”

**向笠広次国際ロータリー会長**

『ロータリーの効果は 精神的 汚染の治療に止まらず、個々の **ロータリアン**の 性格をも変えるという

積極的な効果をもたらす。つまり、真に熱心な **ロータリアン**に対する 報いは、より親切な

心と より 優れた性格が 与えられることである』

**など、言葉を残しています。**

**11ページ目**

**内なる人づくり　外なる人づくり**

　　　　　　　　　　　　　　　　（読まない）

ロータリーの人づくり

外なる人づくり

内なる人づくり

ロータリアンの人づくり　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ロータリアンに関係する人づくり

・新人研修（ＦＲＥ）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・出前授業

・各種 フォーラム　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・被災者支援事業(奨学金支援他)

・各種 奉仕事業　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・米山奨学生 支援事業

・各種 ロータリアン研修会

**ロータリーの人づくりには、内 と 外 があります。**

人づくりは、その対象が**ロータリアン**であるか否かによって、「内なる人づくり」と「外なる人づくり」に

分類することができます。

内なる人づくり、すなわち **ロータリアン**の 人づくりとしては、新人研修に始まり、各種フォーラム、炉辺会議や、戦略委員会、各種の奉仕事業やロータリアンの研修会などをあげることができます。

また、外なる人づくりは**、ロータリアン**以外に対する人づくりですが、米山奨学生や青少年交換学生なども

これに含めて考えることができそうです。

※**さまざまな職業奉仕活動を 実践する際には、**

**「ロータリーの職業奉仕と 言えるためには」 という 視点が欠かせないでしょう。**

**12ページ目**

**最後に・・・　人づくりは自分づくり**

**ロータリーは人づくり」 と考えていますが、人が人をつくることはできません。**

**すべて各人が、自ら成長をしていく 「自分づくり」が 基本であり、ロータリーは その成長の後押しをする**

**役目であります。**

**「人づくりは自分づくりの 支援の場 」 と、とらえ、ロータリーの発展に 寄与することが必要です。**